

# 活動報告

23年度実施及び継続中の事業の主なものは左の通りです。

- 太陽光発電拡充事業 本号の記事1
- 交通弱者支援と観光誘致 記事2
- 活動拠点整備(やよみ亭の改修整備)
- 社会教育事業
- 弓削能プロジェクト(23年9月実施支援)

ブルキナファソ(アフリカ)におけるHIVとエイズ取材(23年8月実施支援)

◆ 24年4月には写真家村上宏治氏のブルキナファソ報告と観光誘致写真展を計画しています。この写真展には町内写真家の一部共同展も含まれます。

◆ 地域交流事業(各理事による「やよみ亭」文化講座)  
自治研究会(毎月第1日曜日)  
やよみ亭映画研究会(毎月15日)  
わかす・はいる  
体験五右衛門風呂(通年・予約制)  
餅つき・味噌造り・海苔巻き、ミニ菜園など地域味覚の再発見と体験

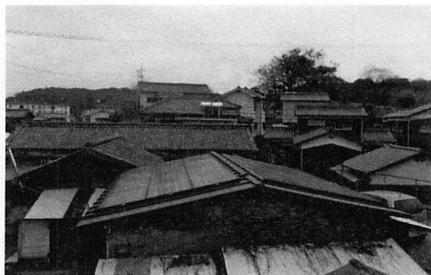
## 地域を創造する NPO 頼れるふるさとネット通信

2012.2.15 No.3

発行者 特定非営利活動法人頼れるふるさとネット  
〒794-2506 愛媛県越智郡上島町下弓削 515  
☎&Fax 0897-72-9188 (事務局 /やよみ亭・古川)  
090-8247-5279 (事務局留守番携帯・平山)  
0897-77-3072 (第2事務所/平山)  
メール k-jritikenkyuukai@amber.plala.or.jp  
ホームページ http://tayofuru.net/

### 再生可能エネルギーの活用 太陽光発電稼働開始!

水仙月の2月2日、NPO法人頼れるふるさとネット活動拠点「やよみ亭・離れ」で太陽光発電システムが稼働を始めました。



「やよみ亭・離れ」に設置した太陽光発電システム

この事業は平成23年春、副理事長の発案により離島における個々の電力エネルギー自給と、余剰電力売電による減価償却を実施し、地域の再生可能エネルギー利用への関心を高めることを目指すものです。

法人の都合により24年度実施としていましたが、3・11東日本大震災の復興資金捻出のため、太陽光発電システムへの国の補助金が廃止若しくは減少するかもしれないという情報があったため、再び前倒しで年度内取り組みとなりました。

- ・発電システム：京セラ太陽光電池モジュール24枚。発電出力4.2KW。
- ・開始時売電価格42円(1KW/時)です。
- ・社団法人太陽光発電協会の補助金20万1千600円。

上島町の補助金は、物件に個人住宅所有者が居住するのが条件とされ、当方法人のように、賃貸家屋に設定しているものは補助対象とならないので受けられませんでした。

### ●瀬戸内海は太陽光発電の適地

住宅の規模の割には大容量を設置したのは屋根の形状が平屋、板金で設置が容易であること、離れの活用形態を考えてのことでした。

「やよみ亭・離れ」は法人の定款に定める活動として、緊急避難用貸し出しや「創作活動拠点プログラム」という若い芸術家育成支援に充てています。(空いているときならごく短期の宿泊にも応じられます。利用規程あり)

町への移住者が居宅を確保するまでの一時貸し出し、芸術家の卵が一定期間(概ね年単位)この町で地域の人々との交流も果たしながら創作活動をするのを支援、そういう育成事業のための光熱費等を売電でまかなえないかと考えました。

瀬戸内海は、年間安定した発電量が期待できる適地と言われています。勘定の詳細は始まったばかりですのでこれからですが、発電量、売電料(価格)等は「やよみ亭」の通りから見える場所に何らかの表示をし、住民の皆さんの参考に供したいと考えています。

モニターもやよみ亭で公開していますのでお気軽にお立ち寄り下さい。ウイークデーなら職員が見学等ご案内いたします。



### 交通弱者支援・観光誘致

昨年9月25日、町内6NPOほか1団体との共働で、廃止されていた生名島立石港、弓削島弓削港間の航路復活が成り弓削・尾道直行便が元の姿に戻りました。

この航路の利用者は弓削港の利用者が約6割を占めていたため、生名橋架橋に伴う廃止後多くの住民に不便と不安を感じさせていました。そうしたなか弓削・生名間の航路廃止の噂を聞いた弓削島の高齢のご婦人がたが837名の署名を添え、なんとか廃止にならないよう手を打ってほしいと理事者(町長)と運航業者へ嘆願したものでに廃止が決定していました。

その後前述の7団体が航路復帰願いの署名集めや、架橋に伴う運航業者への愛媛県からの交付金(補償金)の肩代わり返還などの活動を通じ生名～弓削間が復活したのはご案内の通りです。

### ●弓削～尾道航路が全線廃止の危機に

尾道直行便は島の人々の生命線であるばかりでなく、島への観光誘致のためにはなくてはならぬと確信します。我々も復航後設立された「尾道弓削直行便存続連絡協議会」とも連携し、本土からの利用客誘致のための活動を展開しています。しかし、いったん喪われた利用客の復活は一朝一夕には成らず、航路は再び存亡の危機を迎えていると言わざるを得ません。

この現実には上島町が何ら支援をしていない状況は憂慮にたえないところですが、いざ理事者のご高配あるであろうことに希望をつなぎたいです。でなければ尾道市への働きかけも出来ません。(文責・平山和昭)

### 女神ユノの祝日

茨城県 茨城 茨城



2012年も早いもので、もう2月。2月と言えばバレンタインデーですが、最近では友達同士贈り合う「友チョコ」などがあるようですね。

我が家の娘ももれなくその仲間らしく、ここ数年父や弟より貰ってくるから変な感じです。日本のバレンタインデーは女

性から男性にチョコを贈りますが、海外では男女が互いに贈りあったりと愛を確認する誓いの日。欧米では花やケーキ、カードなどを恋人に贈ります。日本のようにイベント化されたものとは違い、歴史的な背景や由来があり国によって習慣は様々。

そもそもチョコレートという発想を日本に初めて誕生させたのは、森永製菓が新聞広告に掲載したことからの始まった

もの。その時の広告にはチョコレートを贈る日ではなく「チョコレートにチョコを添えて手紙などを贈る日」とちゃんと書いてあって、愛の日という点を強調させるための贈答品にすぎなかった。普及定着は難しいかと思われた頃学生の間で密かに流行しだし主婦層にまで広がって、あっという間に「日本型バレンタインデー」の出来上がり。そしてホワイトデーもまたしかり。日本にし



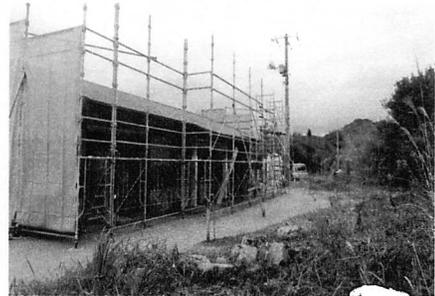
か存在しない。やっぱり十代とか若い人達や社長の力って影響力大です。

世界中に広がった愛を誓う日。歴史的な背景には悲しい出来事があり、それを知ればなんといひ日なのかと思います。そして2月14日は女神ユノの祝日。ユノは家庭と結婚の神です。互いを見つめ合いチョコを貰った数や高価な品ではなく、自分達の愛を確認しましょう。その厚意は希望や奇跡をその場所に必ずもたらす由緒ある日にしたいものです。



### ふたたびイノシシがいて嬉しい町へ 獣肉加工施設を軌道に乗せるために

ちょうど一年前の二月一五日発行の弓削通信フニックスで、イノシシ被害に悩む我が町の実態と、イノシシ肉を販売して荒らされた元を取り戻そうと呼びかけた。まさかそのせいだとは思わなかったが今年三月には、上島町獣肉加工施設が佐島に完成する。



建設にかかる費用は約二千三百万円。販売できるイノシシ肉の加工場が持てることになる。有害鳥獣駆除に関しては町民の有志がボランティア活動によって早くから粘り強く実施されているが捕獲には熟練が必要で、新たな参加がなくば人材が底をつく。余力のあるとき次の手を打たねば慌てる羽目になる。

いま捕獲した猪はその殆どを焼却処分している。ジビエ料理の材料として換金性のある資源にしようというのは素晴らしい。しかし実は、せっかく新鋭設備ができたとしても、猪肉商品化は絵に描いた餅になるのでないかと危惧される事態が進行中なのである。

**公の施設の指定管理者制度**  
 昨年十一月の上島町議会では、施設が完成すれば指定管理者方式で運営するという町側の考えが示された。  
 「公の施設の指定管理者制度」とは、簡単に言えば施設は町のものが、運営は管理委託を受けた者が一定期間責任を持って独立採算制で行う。もちろん条件が整えば延長もある。  
 町内には十指に余る指定管理施設があるが、指定管理者になれば事業計画や会計処理のレポ

### ボランティア頼みの現状から脱却を 銃免許、捕獲熟練等に行政も一翼を担うべき

トも必要になる。慣れぬ者にはなにかと大変だ。  
 件の獣肉加工処理施設の管理者も公募されていると聞くが、弓削のイノシシ捕獲隊に委託したいのが本音のようである。  
**拙速な経費節減はマイナス**  
 ところがそれに先んじ、捕獲隊が指定管理者になれば一頭あたりの町からの補助金を打ち切るとの考えが示された。それでは隊員の意欲が失われると物議を醸し、当面業務が軌道に乗るまでは従来通り補助をするという見解が示された。  
 補助金があれば儲かると誤解する町民も居るようだがとんでもないことである。異は消耗品でひとつ数千円はする。むしろ一カ所に仕掛けておくだけでいい。関連設備の維持や隊員のガソリン代等の経費もある。何よりも畑を荒らされて困る農家の事を思えばこそその活動である。ボランティアの資材費等の経費ぐらい当然みるべきだ。

**『幸せパズル』**  
 2月18日～3月2日  
 ●平凡な主婦がジグソーパズルの才能に目覚め、自分だけの世界を見だしていく。監督・ナタリア・スミルノフ・出演・ミキ・マノイロウ  
 詳しいは ☎0848-24-8222  
<http://www.cinema-onomichi.com/>

なぜ指定管理者制にこだわる？  
 そのあたりをふまえ、ある議員が、当初は町の施設運営で発進し、色々なノウハウを蓄積、つまり行政で一定の指導が出来る態勢にまで持って行って初めて民間の指定管理に出すべきではないか、と町の考えを質したが、町(理事者)の回答は指定管理者一点張りだった。  
 施設管理問題だけではない。捕獲隊の安全な活動維持には捕獲時の屠殺については銃の練達者の参加が無ければならぬ。それを担っているのはたった二名。うち一方は高齢を理由に免許返納を考えておられるそう。もう一方も健康上の理由から交代要員をのぞんでおられる。  
 有害鳥獣駆除のための銃の使用許可証を得るためには数ヶ月から一年以上の時間がかかる。捕獲隊の要請に即応できる人となると適任者が限られる。これにも捕獲活動がスムーズに回っている今のうちに、待ったなしで対応が求められている。町民のボランティアをあてにするだけでは行政とは言えない。  
 イノシシ肉はその処理が適切ならしゃぶしゃぶでも食せる高級肉。販路は開いている。(平山和昭)

急な事で宿が不安という旅慣れたオジサンが気にはなつたが「ミステリーツアー」と思いますが「私共はしやぎ出発。夕方、男女共に効能大との泥湯に。」  
 露天風呂は混浴とわかり少々ビビったけどこれもミステリーと、半分オジサン化したオバチャンは、内湯からいよいよ外へ。よく考えると泥湯である。湯につかり顔だけ出してれば何も見えない。安心してのんびりとした。しかしシャンプー、石けん使用できず、部屋に戻っても、髪はイオウ臭く、足のツメには泥が...。そこへ連れが「フツの湯の露天風呂へ行こうと。夜道を車で走ること半時間、山を登り切ると眼下に女性の行きがたい温泉第一の街の灯りがきれいに広がった。目的の湯は茅葺きの趣のある建物、入湯料二百円を備え付けの缶に入れ「さー入るぞ!」と中をのぞくといきなり混浴。

寒いときは  
 とうとう私達のぼせそうになり「お先に!」と出る羽目に。翌朝、イオウの臭いと酒に酔い早々に床に着き、露天風呂に行きそなっていたオジサンが「青木さん、そういう時はどちをかくすんよ。上?それとも下?」と聞くので「顔です!」こうしてアラ還にして混浴初体験の私のミステリーツアーは終わった。

**お便りから**  
 寒中お見舞い申し上げます。週余を経て2月14日、Valentinedayに87歳となります。池島炭鉱病院閉鎖後、海外(現、長崎市)立池島診療所経営支援を済ませ、縁あって老健施設ニコンコ銘水苑医師として赴任以来7年、成果達成まで後2、3年、健康長寿、常歩無限の想いを抱き続けています。ご支援の程宜しくお願い致します。 01/25 小坂 菅井健二

**青木喜代子**  
 INTO THE WILD  
 イントゥ・ザ・ワイルド  
 毎月十五日  
 やよみ亭映画研究会  
 恵まれた環境を捨て、一人アラスカの荒野へ旅立った青年のお話。90年代の実話をもとにした映画です。  
 場所：やよみ亭交流室 (下弓削515)  
 日時：2月15日(水)午後7時より  
 無料：問い合わせ 72-9188  
 頼れるふるさとネット